

To Bring up basics of education

- 乳児期の経験が
幼児期の育ちになるもの -

江東区南砂さくら保育園



Children's mission ～現代の子どもたちの課題とは～

現代の子どもたちは科学技術の飛躍的發展で、手首を捻ったり回したりするなどの微細運動の経験不足、屋内遊戯(テレビゲーム、ipad他)の充実等様々な要因から粗大運動の経験不足による運動能力の低下がみられ転びやすくなっていることが挙げられる。上記のような姿が幼児の保育の中でも目立ち、保育士間でどのように改善出来るか、日々の保育の中で取り入れられるものはないのか考えた。

特に手首や手先の微細運動が未発達で「生活面での上着のチャックの開閉が出来ない」「脱いだ衣服の裏返しを直せない」「靴下を一つにまとめられない」等の身の回りの事を行う事が難しい子が多い。その為、乳児からの積み重ねの有無により幼児期にはスムーズに出来るが増えるのか、実際に乳児(1,2歳)で発達段階に合わせた知育玩具等を提供して行ってみた。

Toys for practice ～子どもたちの指先の力を鍛える為に～

対象クラス:1、2歳児クラス

1歳児クラスは意欲的に挑戦しようとする姿がある高月齢児を中心に、2歳児クラスは保育者に援助してもらうことが多い子に焦点を当て実施した。

※(今の3歳児クラスの姿から実践テーマを設立した為、様子を見ながら3歳児クラスも実施を試みている。)

以下の知育玩具を使用して、手首の返しや指先の力を付けていった。

- ・ ノシリス(シリコントイ)
- ・ 紐通し
- ・ アイクリップ
- ・ ペットボトルのキャップの開け閉め

期間①:11月中旬～12月上旬 期間②:12月上旬～12月中旬

Learning to be fun ～遊びを通して取得していく楽しさ～

1歳児実施結果

- ・ 期間①ではシリコントイを提供していった。靴下を一つにまとめようとする姿があったが、押し込む力がなく難しい様子だった。遊び方の見本を保育者が見せると、興味を持って挑戦しようとする姿が見られたが、一人では上手く力を入れる事が難しい様子が見られた。その結果から指先の力が未熟ということが見えた。
- ・ 期間②ではアイクリップを提供し指先の力を培う。自分の衣服の裾に付いたり、アイクリップ同士を繋ぎ合わせたりして遊んでいる。その結果、親指と人差し指でものをつまむ力が付き、保育者と一緒の一つの靴下にもう片方の靴下を押し込む姿が増えてきた。



2歳児実施結果



- 期間①では紐通しを準備した。衣服を自分で履いたり畳んだりする姿が増えたが、裏返ったズボンを整える様子は少なかった。紐通しでは玩具の穴に通した紐を引っ張り、片方の手で玩具を持つという左右で違う動作を繰り返す姿が見られた。その後、ズボンの裏返しを直すのと同じ原理だという事を、着脱を行う際に子どもに伝えている。その結果、紐通しの遊びと衣服の裏返し方が結び付き、習得する事が出来た。
- 期間②では低月齢児で保育者の援助を多く必要とする子に焦点を当てて実施している。同じく紐通しを行い、両手で違う動きをする事は出来るようになってきた。ズボンを整える際も、紐通しと同じように手を動かそうとする姿が増えてきた

Potential abilities

～子どもたちの底に眠る力を引き出す為に...～

遊びを通して特に指先が鍛えられた事で、自分の身の回りの事をやってみようとする意欲や、実際に習得する姿が見られた。この事から、普段の何気ない遊びでも保育者の声掛けや展開の仕方によって、遊びと生活が結びついていく事が分かった。子どもの成長に合わせた遊びで、脳や神経に良い刺激を与え、それらを取り入れることで、頭・心・体の成長を促す事が出来る。乳児期からの経験の積み重ねが基礎となり、幼児期への姿に繋がっていくのだと感じた。

今回1、2歳児で実践をしたが、それ以外のクラスでもさまざまな経験を得る機会を作る事が大切だと考えた。短い期間でも結果を得ることが出来たことを子どもや保育者の自信に繋げ、これからも楽しみながら潜在能力を引き出していけるような環境設定や遊びの提供を行っていく。